上田寛 教授　略歴・主な業績

略　　歴

略　　歴

1947年８月７日　徳島県徳島市に生まれる
1966年３月　徳島県立城南高等学校卒業
1966年４月　京都大学法学部入学
1970年３月　京都大学法学部卒業
1970年４月　京都大学大学院法学研究科修士課程入学
1972年３月　京都大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）
1972年４月　京都大学大学院法学研究科博士課程入学
1974年７月　京都大学大学院法学研究科単位取得退学
1990年10月　法学博士（立命館大学）

職　　歴

1974年７月　京都大学法学部助手
1977年10月　立命館大学法学部助教授
1985年４月　立命館大学法学部教授
2004年４月　立命館大学法務研究科教授（移籍）

（学内役職歴）

1983年４月　二部教務主任（～1985年３月）
1988年４月　法学部学生主事（～1989年３月）
1989年12月　教職員組合書記長（～1990年12月）
1992年４月　法学部主事（～1993年３月）
1996年４月　研究部長（～1998年３月）
1999年４月　大学院法学研究科長（～2001年３月）
2002年４月　法学部長，学校法人立命館理事・評議員（～2004年３月）
2005年７月　学校法人立命館評議員（～2007年２月）
2006年４月　図書館長（～2007年２月）
2007年３月　学校法人立命館理事・評議員（～2011年３月）
2007年３月　常務理事（学生担当）（～2009年３月）

2009年 4 月　　学校法人立命館副総長・立命館大学副学長（～2011年 3 月）
2011年 4 月　　総長特別補佐（現在に至る）

所属学会

日本刑法学会
犯罪社会学会
民主主義科学者協会法律部会
比較法学会　　理事（1998年 6 月～2012年 6 月）
Research Committee 29　International Sociological Association

主な業績

著書・編書

『ソビエト犯罪学史研究』
（成文堂）（1985年12月）
ПРЕСТУПНОСТЬ И КРИМИНОЛОГИЯ В СОВРЕМЕННОЙ ЯПОНИИ
（ПРОГРЕСС—МОСКВА）（1989年 1 月）
『犯罪学講義』
（成文堂）（2004年 4 月）
『国際組織犯罪の現段階：世界と日本』
（講座・人間の安全保障と国際組織犯罪　第 2 巻）
（日本評論社）（2007年 8 月）

共著書・共編書

『現代刑法学原論〔総論〕』
刑法理論研究会著（執筆グループへの参加）（三省堂）（1983年 4 月）
『刑法各論講義』（有斐閣ブックス）
生田勝義・名和鐵郎・内田博文と共著（有斐閣）（1987年 4 月）
『刑事政策講義』（有斐閣ブックス）
森本益之・瀬川晃・三宅孝之と共著（有斐閣）（1988年 2 月）
『現代刑法入門』（有斐閣アルマ）
浅田和茂・内田博文・松宮孝明と共著（有斐閣）（1996年11月）
『挑戦をうける刑事司法――ボーダレス社会における犯罪と人権――』

大久保史郎と共編著（日本評論社）（2001年２月）
『未完の刑法――ソビエト刑法とは何であったのか――』
上野達彦と共著（成文堂）（2008年３月）

翻 訳 書

『マルクス主義と刑法』
A. A. ピォントコフスキー著　中山研一と共訳（成文堂）（1979年１月）
『トポルニン　ソビエト憲法論』
トポルニン著　畑中和夫監訳　竹森正孝・新美治一と共訳
（法律文化社）（1980年５月）
『Φ.エンゲルス　国家と法』
ヴェ・エム・チヒクヴァーゼ他編　中山研一と共訳（成文堂）（1981年３月）

論　　説

「刑法における十月社会主義革命（一）（二）（三・完）
――ロシア共和国一九二二年刑法典の成立――」
法学論叢第92巻第３号 p. 35（1972年12月）
法学論叢第93巻第３号 p. 47（1973年６月）
法学論叢第93巻第６号 p. 53（1973年９月）
「法と国家の死滅論と刑法に関するノート」
院生論集第１号 p. 19（1974年４月）
「社会主義刑法の原則をめぐって――クルイレンコ＝ヴィノクーロフ論争――」
社会主義法研究年報 No. 2『革命と法』（法律文化社）p. 166（1974年４月）
「ソビエト権力と革命的合法性（一）（二）（三）・完
――新経済政策期における革命的合法性の全体像について――」
法学論叢第97巻第３号 p. 40（1975年６月）
法学論叢第97巻第６号 p. 56（1975年９月）
法学論叢第98巻第１号 p. 77（1975年10月）
「クルイレンコ＝ヴィシンスキー論争」
法学論叢第98巻第４号 p. 43（1976年１月）
「社会主義国家における『人身の自由』――ソビエト刑事手続を中心として――」
社会主義法研究年報 No. 4『現代社会主義憲法論』
（法律文化社）p. 167（1977年５月）

「自由剥奪を伴わない矯正労働」
鈴木茂嗣編集代表『現代の刑事法学（下）』（平場安治博士還暦祝賀）
（有斐閣）p. 370（1977年 7 月）
「宮内教授による社会主義刑法の研究」（特集 戦後民主主義法学の三〇年
「宮内刑事法学の残したもの」前野育三・斉藤豊治・生田勝義と共同執筆）
法の科学第 5 号 p. 136（1977年 8 月）
「ソビエト刑法とクルイレンコ」
比較法研究 No. 39 p. 123（1977年10月）
「ソビエトの刑事鑑定制度」
上野正吉・兼頭吉市・庭山英雄編著『刑事鑑定の理論と実務』
（成文堂）p. 47（1977年12月）
「公害と刑法」
中山研一編『現代刑法入門』（法律文化社）p. 244（1977年12月）
「『ソビエト犯罪学』前史――国立犯罪学研究所の解体をめぐって――」
立命館法学第138号 p. 1（1978年10月）
「『中華人民共和国刑法』についての覚書」
中国研究第105号 p. 38（1979年10月）
「犯罪学の課題と方法――ソビエト犯罪学の動向――」
立命館法学第146号 p. 1（1980年 1 月）
「ソヴィエト司法制度の新展開 2・完――ソヴィエト連邦弁護士法」
法律時報52巻 8 号 p. 79（1980 年 8 月）
「ソビエトの行刑法の動向と監獄法の改正」（「監獄法改正の検討 2 」）
法律時報53巻 2 号 p. 85（1981年 2 月）
「ソビエト刑法における堕胎罪について」
立命館法学第150-154号 p. 102（1981年 2 月）
「ソ連における無頼行為の実例――犯罪・非行問題の一側面――」
（中山研一と共同執筆）社会主義法研究年報 No. 6
『社会主義における生活と法』（法律文化社）p. 78（1981年12月）
「社会主義国の犯罪捜査」（「犯罪捜査の比較法2」）
法律時報54巻10号 p. 129（1982年10月）
「ソ連邦における『全人民国家』論について」
畑中和夫・福井英雄編『現代国家論』（法律文化社）p. 201（1983年 9 月）
「ソ連邦における犯罪学の再生（一九五四-六三）」

立命館法学第169号 p. 1（1983年12月）

「日本における犯罪学研究――クズネツォーヴァ教授への補足説明――」

立命館法学第170号 p. 1（1984年 1 月）

「刑事手続と人身の自由」

藤田勇編『社会主義と自由権』（法律文化社）p. 304（1984年 2 月）

「現代刑事政策の当面する問題〔 4 〕社会主義諸国」

宮澤浩一・藤本哲也編『講義　刑事政策』（青林書院新社）p. 38（1984年 6 月）

「最近のソビエト刑事立法の動向をめぐって」

立命館法学第175号 p. 1（1984年12月）

「日本の機密保護法の歴史」

中山研一・斉藤豊治編『総批判 国家機密法　危機にたつ人権と民主主義』

（法律文化社）p. 11（1985年11月）

「治安立法の新たな動向」

「治安機構の強化」

「刑事政策の治安政策化」

乾昭三・畑中和夫・山下健次編

『現代日本の国家と法』（講座 現代日本社会の構造変化②）

（有斐閣）p. 28, p. 32, p. 35（1986年 7 月）

「『犯罪者人格』の研究をめぐって」

立命館法学第188・189・190号 p. 282（1987年 3 月）

「『防衛秘密法案』では何が変わり，何が変わらなかったか

――『総批判・国家機密法』補遺――」

中山研一・斉藤豊治編

『総批判 国家機密法　危機にたつ人権と民主主義』第三版附録

（法律文化社）（1987年 7 月）

「刑法におけるペレストロイカ――ソ連邦における刑法改正問題の始動――」

立命館法学第195号 p. 1（1988年 1 月）

「東欧諸国の刑事立法の動向――ソビエト刑法とのかかわりで――」

立命館大学人文科学研究所紀要 No. 46 p. 25（1988年 6 月）

「ソビエトにおける夫婦間の強姦」（「夫婦間レイプの成否と比較法 6・完」）

法律時報60巻 8 号 p. 64（1988年 7 月）

「犯罪学の対象としての犯罪について」

立命館法学第201・202号 p. 249（1989年 3 月）

「ソビエト弁護士連合の成立」
『ペレストロイカ下の弁護士：大阪・日ソ法律家交流委員会訪ソ報告』
（大阪・日ソ法律家交流委員会）（1989年 7 月）
「ソ連邦における最近の犯罪現象について」
ソビエト研究所ビュレティン第 5 号 p. 15（1989年10月）
「ソビエト社会における社会的逸脱行動」
立命館法学第209号 p. 1（1990年 6 月）
「犯罪と刑罰」
社会主義法研究年報 No. 10『変動する社会主義法――基本概念の再検討――』
（法律文化社）p. 138（1991 年 1 月）
「社会主義諸国における被疑者取調べ」
井戸田侃編集代表『総合研究＝被疑者取調べ』
（日本評論社）p. 289（1991年 8 月）
「『マフィア』――最近のソビエト犯罪事情」
ソビエト研究第 6 号 p. 80（1991年10月）
「ロシアの『8 月革命』とその後」
日ソ経済調査資料 No. 718 p. 2（1992 年 3 月）
Новое законодательство и сталая проблематика：
《борёкудан》или организованная преступность в современной Японии
Ritsumeikan Law Review No. 7 p. 1（1992年 3 月）
「『刑罰論』について」
徐益初・井戸田侃編著『現代中国刑事法論』（現代中国法叢書第 3 巻）
（法律文化社）p. 75（1992年 9 月）
「刑法における階級性原理をめぐって
――『ソビエト刑法』とは何であったのか――」
立命館法学第225・226号 p. 372（1993年 3 月）
「『エリツィンのロシア』と刑法」
立命館法学第231・232号 p. 181（1994年 3 月）
People' s Participation in Criminal Justice：Japanese Variant
Ritsumeikan Law Review No. 9 p. 11（1994年 3 月）
「最近のロシアの犯罪事情」
ロシア・ユーラシア経済調査資料 No. 748 p. 2（1994年 9 月）
「新刑法典への模索――『エリツィンのロシア』と刑法・二――」

立命館法学第237号 p. 1（1995年 1 月）

「ラスコーリニコフの周辺――ドストエフスキーの『罪と罰』をめぐって――」

立命館法学第243・244号 p. 279（1996年 3 月）

「ロシアの議会選挙と経済・社会　最近のロシアの犯罪事情と刑法改正問題」

ユーラシア研究第12号 p. 2（1996年 7 月）

「刑事責任の実質をめぐって――『ソビエト刑法』とは何であったのか――」

中山研一先生古稀祝賀論文集編集委員会編

『中山研一先生古稀祝賀論文集 第三巻 刑法の理論』

（成文堂）p. 199（1997年 2 月）

「インターネットで外国法 第10回 ロシア法」

法学セミナー No. 507 p. 127（1997年 3 月）

「犯罪と新刑法典の制定」

藤田勇・杉浦一孝編『体制転換期ロシアの法改革』

（法律文化社）p. 199（1998年 2 月）

Changes in Patterns of Crime in Japan

—Has the Myth of Personal Safety Been Destroyed ?—

Ritsumeikan Law Review No. 14 p. 1（1998年 3 月）

「テロ犯罪（政治的犯罪）」

加藤久雄・瀬川晃編『現代青林講義　刑事政策』

（青林書院）p. 242（1998年 4 月）

「ロシア」

指宿信編著『インターネットで外国法』（日本評論社）p. 145（1998年 7 月）

「犯罪現象の国際化と刑事立法」

受験新報第48巻 8 号 p. 6（1998年 7 月）

「ロシアにおける陪審裁判の復活」

秋山賢三・大出良知・小田中聰樹・前野育三・村井敏邦編著

『民衆司法と刑事法学』（庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集）

（現代人文社）p. 51（1999年 6 月）

「社会主義と犯罪現象――ソビエト・ロシアにおける犯罪現象について――」

浅田和茂・高田昭正・久岡康成・松岡正章・米田泰邦編

『転換期の刑事法学』（井戸田侃先生古稀祝賀論文集）

（現代人文社）p. 919（1999年10月）

「いわゆる『反革命犯罪』をめぐって」

祝賀論文編集委員会編『刑事法学の新展開』（夏目文雄先生古希記念論文集）
（中部日本教育文化会）p. 141（2000年 1 月）
「ロー・スクールで法学教育は変わるの？」
別冊法学セミナー No. 165 法学入門2000 p. 4（2000年 4 月）
「資料解説　司法制度改革の経緯と到達点（４）ロースクール構想」
（渡辺千原・葛野尋之・和田真一と共同執筆）
法律時報増刊 シリーズ司法改革Ⅰ p. 232（2000年 4 月）
「検事監督制度からの離脱――ロシア連邦における公判前手続の改革――」
立命館法学第271・272号 p. 88（2001年 2 月）
「ロシアの司法改革と検事監督制度の動揺
――公判前手続における検察官の役割を契機として――」
国際公共政策研究（大阪大学大学院国際公共政策研究科）
第 6 巻第 2 号 p. 81（2002年 3 月）
「ロシアにおける検事監督制度の改革――公判前手続を中心として――」
日本国際問題研究所編『ロシアにおける司法制度改革の動向』
（日本国際問題研究所）p. 36（2002年 3 月）
「犯罪現象の変化をどう見るか――刑事立法問題を契機としての省察」
比較法史学会編『法生活と文明史　Historia Juris　比較法史研究
――思想・制度・社会⑪』（未來社）p. 278（2003年 3 月）
「犯罪と刑罰」
小森田秋夫編『現代ロシア法』（東京大学出版会）p. 177（2003 年 9 月）
「犯罪学の課題について」
広渡清吾・大出良知・川崎英明・福島至編
『民主主義法学・刑事法学の展望　上巻――刑事訴訟法・少年法と刑事政策』
（小田中聰樹先生古稀記念論文集）（日本評論社）p. 614（2005年12月）
「わが国における『外国人犯罪』の問題」
立命館法学第304号 p. 1（2006 年 3 月）
「グローバリゼーションと国際組織犯罪」
立命館法学第310号 p. 49（2007年 3 月）
「ロシア刑事訴訟法における『当事者主義』原則」
三井誠・中森喜彦・吉岡一男・井上正仁・堀江慎司編集委員
『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集［下巻］』（成文堂）p. 57（2007年 5 月）
Crime in Japan and its relation to international organized crime

Edited by Shiro Okubo and Louise Shelley,
Human Security, Transnational Crime and Human Trafficking : Asian and Western perspectives (Routledge) p. 96（2011年）

「ロシア刑法における犯罪体系について」
法律時報84巻１号 p. 38（2012年１月）

翻　訳

「ロシア共和国刑法典」（中山研一・上野達彦と共訳）
法務資料第442号（1982年９月）

「W・E・バトラー　ソビエト法史の一断面
——ソビエト法活動家協会——」（阿曽正浩と共訳）
立命館法学第167号 p. 67（1983年７月）

「第９章　社会主義諸国における犯罪学研究施設の発展」
「第10章　アフリカ，中東および東南アジアの発展途上諸国における犯罪学研究」
「第11章　ラテン・アメリカ諸国における犯罪学の状況」
B・ホウィスト著 中山研一監訳『比較犯罪学』（成文堂）
p. 248，p. 288，p. 302（1986年１月）

「第四章　法曹」
「第五章　司法制度」
W. E. バトラー著 畑中和夫監訳『W. E. バトラー 英米法と社会主義法』
（法律文化社）p. 43，p. 55（1986年５月）

「ロシア連邦刑法典」（上野達彦と共訳）
日本国際問題研究所資料（1999年）

資　料

「一九二二年ロシア共和国刑法典（一）
——ソビエト刑法史資料（二）——」（中山研一と共著）
法学論叢第91巻第２号 p. 57（1972年５月）

「一九二二年ロシア共和国刑法典（二）
——ソビエト刑法史資料（三）——」（中山研一と共著）
法学論叢第91巻第５号 p. 75（1972年８月）

「初期ソビエト刑法といわゆる『危険性』の理論
——ソビエト刑法史資料（四）——」（中山研一と共著）

法学論叢第93巻第 6 号 p. 87（1973年 9 月）

「クルイレンコ草案（1）（2）
——いわゆる『各則なき刑法典』草案・一九三〇年」（中山研一と共訳）

法律時報46巻 6 号 p. 223（1974年 6 月）

法律時報46巻 7 号 p. 98（1974年 7 月）

「ソビエト法研究所草案——ソビエト刑法史資料（五）——」（中山研一と共著）

法学論叢第99巻第 6 号 p. 71（1976年 9 月）

「ソビエト社会主義共和国連邦憲法（基本法）」
（大江泰一郎・小森田秋夫・杉浦一孝・竹森正孝・新美治一・早川弘道と共訳）

法律時報50巻 2 号 p. 96（1978年 2 月）

「初期ソビエト刑法と売春問題——ソビエト刑法史資料(六)——」

法学論叢第103巻第 3 号 p. 89（1978年 6 月）

「ゼー・エム・チェルニロフスキー　前社会主義法——進歩と継承性」
（社会主義法読書会「社会主義的比較法と法の継承性」畑中和夫編において
共同翻訳）

立命館法学第146号 p. 107（1980年 1 月）

「シルヴィント草案1・2完
——国立犯罪学研究所草案・一九三〇年」（中山研一と共訳）

法律時報52巻 1 号 p. 151（1980年 1 月号）

法律時報52巻 2 号 p. 110（1980年 2 月号）

「ウクライナ共和国における犯罪学研究の成立」

立命館法学第156号 p. 83（1981年 7 月）

「ソ連邦における罰金刑」
（関西刑事政策研究会「世界各国の罰金刑」吉岡一男編において共同執筆）

法学論叢第111号第 4 号 p. 103（1982年 7 月）

「ソ連邦における市民の諸権利の保護にむけられた刑法改正の諸提案」

立命館法学第164号 p. 97（1983年 2 月）

「ベトナム社会主義共和国刑法典（一）（二）（三）（四・完）」

立命館法学第180号 p. 77（1986年 1 月）

立命館法学第182号 p. 126（1986年 2 月）

立命館法学第185号 p. 89（1986年 9 月）

立命館法学第187号 p. 106（1986年12月）

学会動向・研究動向

「『ソ連』における組織犯罪の研究」

学術月報第45巻第８号 p. 17（1992年８月）

解　説

「社会的病理現象」「犯罪」

ユーラシア研究所編『情報総覧　現代のロシア』

p. 375，p. 376（大空社）（1998年２月）

書　評

「小田博著『スターリン体制下の権力と法』――社会主義的合法性原理の形成過程」

法律時報59巻５号 p. 129（1987年４月）

「上野達彦著『ロシアの社会病理――体制転換期の罪と社会』」

社会体制と法第３号 p. 92（2002年５月）

紹　介

「ヴェルツェル『法学における合理性の限界』」

（刑法読書会「エルンスト・ハイニッツ記念論文集の紹介」井戸田侃編
において共同翻訳）

立命館法学第113号 p. 76（1974年６月）

「ゲルハルト・シムソン『スウェーデン刑法における新たな発展方向』」

（刑法読書会「エドュアルト・ドレーヤー記念論文集の紹介（一）」松岡正章編
において共同翻訳）

甲南法学第19巻第２・３・４号 p. 180（1979年３月）

「ヴェ・エム・サヴィツキー『刑事裁判手続における検事監督の理論・概説』」

立命館法学第144号 p. 84（1979年９月）

「クドリャフツェフ他編『刑罰法規の改善の諸問題』の紹介（三）（四）（六）
――ソ連刑法典の理論モデル」（学会展望54，55，57）

警察研究第58巻第２号 p. 78（1987年２月）

警察研究第58巻第３号 p. 78（1987年３月）

警察研究第58巻第５号 p. 93（1987年５月）

「フリートリヒ＝クリスチァン・シュレーダー
『ソ連邦および DDR における犯罪行為の構成』」

（刑法読書会「ハンス・ハインリッヒ・イェシェック記念論文集の紹介（六）」井戸田侃編において共同翻訳）

立命館法学第194号 p. 104（1987年12月）

新　　聞

「ロンブローゾとトルストイ」

京都新聞　2001年 4 月18日朝刊

講演録・講義録・コメント

「刑法改正への動き」

（シンポジウム「ペレストロイカとソ連の刑事司法」上野達彦，杉浦一孝と共同執筆）

比較法研究 No. 50 p. 154（1988年10月）

辞典・事典項目執筆

「罪刑法定主義」

岡崎次郎編集代表『現代マルクス＝レーニン主義事典 上 アーソ』（社会思想社）p. 703（1980年11月）

「赤線」「斡旋収賄罪」「阿片煙に関する罪」など173項目を執筆

中山研一編『刑事法小辞典』（成文堂）（1992年10月）

「季節・気候と犯罪」「群集犯罪」「国際犯罪学会議」など27項目を執筆

三井誠・町野朔・曽根威彦・中森喜彦・吉岡一男・西田典之編『刑事法辞典』（信山社）（2003年 3 月）

「古典派犯罪学」「実証主義犯罪学」「犯罪生物学」など10項目を執筆

石川正興・小野正博・山口昭夫編『確認 刑事政策・犯罪学用語 250』（成文堂）（2007年 3 月）

そ の 他

「国際共同研究『ボーダレス社会における犯罪現象と刑事法』の一環としての国際共同研究会および公開シンポジウムの実施」

立命館大学法学部ニューズレター第15号 p. 4（1999年 1 月）

「21世紀の法曹養成・連続シンポジウム・第 2 回『地球市民法曹への道～日本型ロースクールへの提言』の開催」

立命館大学法学部ニューズレター第21号 p. 4（2000年 6 月）

「2003年香港調査報告――人・金・物・情報そして犯罪のごった煮――」

立命館大学法学部ニューズレター第33号 p. 4（2003年 6 月）

「科研プロジェクト（海外出張）報告　2004年夏　サンクト・ペテルブルグ」

立命館ロー・ニューズレター第39号 p. 11（2004年12月）